

『生誕 120 年』

『てぶくろ』の画家 ラチョフと 民話絵本の世界



2026年3月1日(日)～5月10日(日)

主催：ちひろ美術館

協力：Vladimir Turkov、岩波書店、偕成社、福音館書店、日本ロシア語情報図書館
後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、
日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区

図版：エフゲニー・ラチョフ『てぶくろ』(福音館書店) より 1950年

同時開催

ちひろ いつもとなりに — 子どもと動物 —



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

生誕
120年

『てぶくろ』の画家 ラチョフと 民話絵本の世界

ウクライナ民話絵本『てぶくろ』で知られるロシアの画家エフゲーニー・ラチョフは、リアルな動物たちに民族衣装を着せ、人間の性格を巧みに重ね合わせた独自の動物民話を数多く描きました。代表作の『てぶくろ』は、日本では1965年に翻訳出版されて以来、世代と国境を超えて子どもたちに読み継がれています。2022年にロシアがウクライナへ侵攻し、今なお戦争終息の兆しが見えないなか、『てぶくろ』はウクライナという国を身近に感じ、共生と平和を考えるきっかけとなる絵本として、改めて注目されています。

本展では、生誕120年を記念して、ロシアとウクライナ、ふたつの国に暮らし、子どものための絵本に生涯を捧げたラチョフの全コレクション作品を展示します。ラチョフが生きた激動の時代の絵本の歴史をひもとくとともに、ちひろ美術館コレクションのなかから、困難な時代でも表現の道を模索し、豊かな文化を後世へと願い描かれた民話絵本を紹介します。

ぬいぐるみお泊り会

日 時：3月28日（土）

参加費：500円（入館料別） 定 員：10体

対 象：中学生以下の方がお持ちのぬいぐるみ

申し込み：要事前予約（3/1より公式サイト、TEL.にて）

にじみでことりを描いてみよう！

日 時：3月29日（日）10:30～15:30

定 員：先着50名

参加費：500円（入館料別） 申し込み：当日受付

講演会 ラチョフと絵本『てぶくろ』の魅力

日 時：4月11日（土）14:00～15:30

講 師：松本猛（ちひろ美術館常任顧問）

参加費：1000円（入館料別）・オンライン700円

申し込み：要事前予約（3/11より公式サイト、TEL.にて）

松本猛ギャラリートーク

日 時：4月12日（日）14:00～14:40

会期中のイベント

わらべうたあそび

日 時：3月7日（土）11:00～11:40

講 師：服部雅子（西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰）

参加費：500円（入館料別） 対 象：0～2歳児と保護者 定 員：8組16名

申し込み：要事前予約（2/9より公式サイト、TEL.にて）

手話通訳つき 対話型ギャラリートーク

日 時：4月4日（土）14:00～15:00 参加費：無料（入館料別）

対 象：手話を主要なコミュニケーションの手段とする方（ろう者、難聴者、中途失聴者など）のほか、どなたでも

定 員：15名 申し込み：要事前予約（3/4より公式サイトにて）

本事業の鑑賞サポートは、「東京文化戦略2030」の取組「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の一環でアーツカウンシル東京が助成しています。

ギャラリートーク 日 時：第1・3土曜日 14:00～14:30

絵本のじかん 日 時：第2・4土曜日 11:00～11:30

協 力：NCBN（ねりま子どもと本ネットワーク）

次回 展示 予定

5月15日（金）～7月20日（月・祝）

いわさきちひろ「とても素朴なんだけど大切なものの、それが絵本の中にはあるんです。」

ちひろ美術館コレクション 魔法の絵本＝絵本の魔法

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 TEL.03-3995-0612 テレホンガイド 03-3995-3001 FAX 03-3995-0680

開館時間 = 10:00～17:00（入館は閉館の30分前まで） 休館日 = 月曜日（祝休日は開館、翌平日休館。4/28～5/10は無休）

入館料 = 大人1200円 / 高校生以下無料 / 年間パスポート3000円

交通。電車の場合 = 西武新宿線 上井草駅下車徒歩7分。バスの場合 = JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き（荻14）上井草駅入口

下車徒歩5分 / 西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き（荻14）上井草駅入口下車徒歩5分

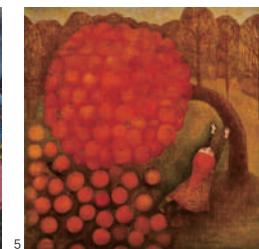
※開館情報、会期、イベント情報などは予告なく変更する可能性があります。ご来館前に最新情報をご確認ください。



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

chihiro.jp

同時
開催ちひろ いつもとなりに
—子どもと動物—

Евгений Рачёв
エフゲーニー・ラチョフ（1906-1997）

ロシアのトムスクに生まれる。幼少期を自然豊かなシベリアで過ごし、野生の動物に親しむ。1928年にクバン美術師範学校を卒業、翌年キーウの出版社で挿し絵を描き始める。1936年、モスクワの児童文学出版社の招致を受けて移住し、以後精力的に動物絵本の制作に取り組むようになる。第二次世界大戦後、動物たちに人間的性格を重ねた表現を取り入れた民話絵本を次々に発表。代表作に『てぶくろ』『マーシャとくま』（ともに福音館書店）『まほうの馬』（岩波書店）など。

1. 絵本『ウクライナ民話 てぶくろ』（内田莉莎子 訳、福音館書店、1965年） / 2. エフゲーニー・ラチョフ 犬のスワート『白樺皮の筒』より 1981年 / 3. エフゲーニー・ラチョフ ロシア民話『マーシャとくま』 1965年 / 4. タチヤーナ・マーヴィナ 狼に乗って空を飛ぶイワン王子 1950年 / 5. 出久根原『マーシャと白い鳥』（偕成社）より 2005年 / 6. エフゲーニー・ラチョフ ロシア民話『つばのおうち』 1959年



小鳥や犬、猫などの身近な動物とふれあう
子どもたちが描かれた作品を、ちひろの動物
にまつわる思い出とともに紹介するほか、動
絵本に登場する鳥たちの姿にも注目します。

いわさきちひろ 窓辺の小鳥と少女
『ことりのくるひ』（至光社）より 1971年